

令和2年度 尼崎市社会保障審議会 第3回計画策定部会  
議事録

日時：令和2年12月16日（水）16：00～18：00  
場所：尼崎市市政情報センター セミナールーム

開 会

1 委員及び出席職員紹介

- ・資料及び傍聴人の確認

部会長：皆様、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。また、zoomでの参加も、心より感謝を申し上げます。できるだけ皆様からのご意見をいただく時間を優先して取らせていただきますので、前回に引き続きまして、事務局からの説明は要点のみでお願いしたいと思います。なお、本日のメインの議題として、市民・事業者などのアンケート項目等の審議が入っています。こちらは、前回の策定部会で、アンケート項目について事務局案のたたき台が提示されました。皆さんに読んでいただきまして、策定部会での意見、もしくは、それを踏まえて修正されたアンケート票になっています。本日、この後事務局から修正点や修正意図の説明を受けた後に質疑応答の時間を設け、実際に発送するアンケート調査票の内容を固めていきたいと思っています。かなりのご意見をいただきまして、私も皆さんからいただいた意見も見させていただいています。ありがとうございました。かなり精度が良くなっていると思います。

2 市民・事業者等のアンケート項目の審議

- ・資料1「令和2年度 尼崎市社会保障審議会 第3回計画策定部会ポイント」、資料2「第2回計画策定部会からの追加修正一覧表」、資料3「アンケート調査にかかる委員意見一覧について」、資料4～7「尼崎市地域福祉に関するアンケート調査（市民、民生児童委員、保護司、事業所）」について、事務局より説明。

<質疑応答>

委員：市民向けの調査票はページ数がまだ多いと思う。その原因として、選択肢の数がやたら多い。例えば、最初の「あなたご自身のことについて」の家族構成で、○が1つと書いているが、こんなに細かく分ける意味はあるのか。これを集計するのだと思うが、無駄に多い印象を受ける。

委員：以前お話ししたところで、ボランティアによる自己肯定感もあるのではないかという意見を反映していただいていたと思う。

部会長：ボランティアに関しては、他の委員からも色々と意見が出ていた。例えば、ボランティアの範囲とか、どこまでをボランティアと指すのか。委員からは、組織に入って実施するボランティアもあれば、小さい助け合い、例えば席を譲るだけでもボランティアだということも含めてお話しされていた。ボランティアという概念のハードルを下げる、どこかの組

織に入って毎週何かするボランティアになると、かなりハードルの高いボランティアになるので、小さなボランティア的なことが含まれるようなアンケートになれば、アンケートに回答した人のボランティアへのモチベーションも高くなるのではという意見もあった。

委員：社協に関連することで、ボランティア活動について、問4の選択肢に「むすぶ」でボランティア養成研修とあるが、「むすぶ」というよりは各地区社協でということも多いので、括弧に入れていただく方が良いと個人的に思う。

あと、成年後見の自由記述の「利用したくない」理由は答えにくいのではないかと挙げていたが、具体的に選択肢を入れていただいたので、答えやすくなっていると思う。

委員：表になったりして、分かりやすく、答えやすくなっているのではないかと思います。今回は災害の事と成年後見人の事を重要視して質問するというのが大きなポイントになるのだと感じた。

委員：内容については何も無いが、素朴な疑問として、協力のお願いの文章が丸ゴシックとゴシック体の2種類あるのは、何か意味があるのか。

部会長：協力のお願いの文章については、私も意見させていただいたが、尼崎市の地域福祉計画自体をご存知なのかというところがポイントになると思う。自分が何のアンケートに答えているのか、分かっているのか分かっていないのかだけでも知りたい。尼崎市の地域福祉計画を知っていてこの回答、知らないでこの回答という形にすると、例えば、知っている方は、ボランティアや再犯防止について積極的な意見を言っているとか、知らない人はどっちでもいいみたいな意見の傾向が出るのであれば、ある意味で尼崎市の地域福祉計画を周知徹底していくことが今後の課題になると思う。

委員：私がこのアンケート調査票をもらったら、10～11 ページもあるものに答えられるかというのが率直な感想である。色々なことを知りたいというのは分かるし、集約するのも難しいと思うが、これだけのページ数というのは、率直に言って多いのではないか。私だったら、おそらく捨ててしまうのではないかというのが率直な感想である。

部会長：前回の会議で委員からも意見があった内容だと思う。逆にそれだけ回収率が高いということに委員は驚いてらっしゃったが、書かれる方の負担も考えた方が良いとは思っている。設問を見たら、確かに全部必要だが、相手にとったらかなり時間を取る。私も市民向けの調査に回答してみたが、早めにも書いても30分程度かかってしまう。時代的にも、こういったアンケートにあまり時間を取るのもどうかという思いはある。

また、「していますか／していませんか」といった形や「知っていますか／知りませんか」と、認知率と実施率を聞いているのは分かるし、それによって計画の裏付けを取ろうとしているのも分かるが、実際に答える側からすると、どうでもいいような設問もある。変な話だが、すべてに答えなくても良いというような文面を入れても良いと思った。答えられないものはパスしてもいいという形にしていけないと、負担感がある人もいるのではないかと。自分が答えたい内容だけでも答える方が、回収率も上がると若干考えている。

委員：市民のアンケートで「再犯防止について」という項目があるが、アンケートの内容が市民には難しいのではないかと感じている。

部会長：おっしゃる通り、私もそう思った。このことを、実際に市民がどれだけ知っているのか、

何か市民が協力しないといけないみたいな文面があるので、誘導されているかなという印象がある。例えば、総論として再犯防止活動には賛成するが、各論で、例えば再犯防止のためにこんなことをするということまで踏み込むと、反対する人も出てくるのではないか。漠然としていて、何かしないといけないという文章が付いていると、誘導的な因子が入っているのではないかと思う。

委員：はい。感じました。

部会長：市民の義務のような形の持っていく方はどうか。逆に言えば、再犯防止については尼崎でなくていいといった回答がすごく多くなったとしても、しないわけではない。多くの反対意見があっても、こういった形で風穴を開けていくというような課題設定もあると思うので、最初から「賛成ですか／反対ですか」、「知っていますか／知りませんか」みたいな形だと少し慎重さに欠けるのではないかと考える。

委員：一般市民の方に再犯防止について聞いても、きっと皆さん、「再犯防止って何？」と感じると思う。再犯防止についての説明も何もないので、私は分かりにくいと感じた。

委員：ボランティアに関する問5で、細かい言葉尻になるが、例えば高齢者や障害のある人等のごみ出しや買い物などの「日常的な支援」となると、1回だけのお手伝いは入らないのかとか、ちょっとしたお手伝いは入らないのかとか、言葉尻の話だが「活動」とか「支援」と書くことで、1～2回はしていてもチェックを付けない人も出てくると思った。それから、順番、並びには何か意図があるのか、少し考えないといけないと思う。実際はやったことがあるけど、活動かと聞かれると活動ではないとか、身体的な介護についても人それぞれ捉え方があるので、表現とか設問の並べ方も考えないといけないと思う。

委員：自分は市民なので、市民用の調査票について、例えば2ページのボランティア活動の質問を読むと、いきなり「ボランティア活動など参加していますか」と聞かれるが、何がボランティア活動なのか定義がはっきりしない。語弊があるかもしれないが、私としては、この今日の会議も手当は出ているけどボランティア活動のつもりでやっている。こういうこともボランティア活動として聞かれているのか。そもそもボランティア活動についていきなり聞かれるが、イメージするものがそれぞれ違うし、質問者が何をもって聞いているのか分かりにくいと感じた。

部会長：3年前のアンケートも一緒に作ったが、この3年間、ボランティアの育成がメインテーマだったのか、と思う。少し嫌味な言い方をすると、スケープゴートの質問項目になっていて、本当は地域福祉のことを聞きたい。地域福祉のことを知っているか、地域活動のことを知っているかというのを別の設問にして、ボランティアに参加しているか、地域福祉を知っているかというのと繋ごうとしているような意図が見えてしまう。厳しい言い方かもしれないが、ボランティアをメインに地域福祉計画をしてきたわけではない。例えば、地域福祉計画における地域福祉の項目を挙げて、これを知っているかであれば分かるが、そうではなくて、どうしていきなりボランティア参加をしているかになるのか。逆に言うと、市民向けのアンケートとして、いきなり半分以上の方がボランティアしていないということが想定される設問が来ると、その後のアンケートを答えるモチベーションが下がると思う。自分はボランティアに参加していないけど、この後も答えて良いのか、みたいな。もしくはボランティアの実施状況でクロス集計されると思うと、自分はボランティア

していない側の意見になるので、社会心理学上、あまり自分の意見が尊重されないのではないかという気持ちにもなると言われている。なので、ボランティアをしているかどうかというのは、場所的にもここで良いのか。最後に持っていくのも違うとは思いますが、最初に持ってきたら、自分はしていないから、1軍と2軍があるとしたら、自分の意見は2軍扱いされるとか、何もしていないからあまり意見言うのもどうかとか、そういった形の印象操作をしてしまう可能性も若干ある。それよりは、行政の地域福祉計画を知っているか聞く形で、市民のボールを受けるような形にした方が良いのではないかと。正直入りにくいアンケートだという感じがしている。あまり私が意見を言ってはいけないかもしれないが、今までの意見の集約をしていると、少し重いし、順番も含めて、工夫が、市民目線になっていないのではないかと思う。

再犯の件で言えば、どうしていきなりこれが説明もなくあるのか。アンケート設問自体はたくさんあって良いし、おそらくこれに答えてもらおうと、それを根拠資料として、計画を進める原動力になるのは分かるが、もう少し市民目線で、市民が意見を自由にできるように、アンケートに答えて気分を害さないような工夫をするのも1つだと思う。

私は、ボランティアに参加しているかどうかというあたりが、正直すごくカチンとくるのではないかと予想している。それよりも、我々が進めてきた地域福祉計画をご存知か、周知が足りないという形で入れるようなものにした方が良いのではないかと思う。

委員：市民に対して、ボランティアの範囲として、どこからどこまでをボランティアと思っているかというような調査をこれまでしたことはあるか。ボランティアの幅と言うか、これとこれはボランティアにあてはまるけど、これとこれは違うだろうとか、何かそんな調査のようなデータはあるか。

事務局：私の知る範囲ではそのような調査は実施していない。また、ボランティアの定義についても、改めて言うまでもないと思うが、明確な定義がないと考えている。以前、厚労省でも定義づけしようとしてはいたが明確にされておらず、献血はボランティアなのかとか、第3期計画の時に同じような議論があって、自分が社会貢献をしているという意識で捉えているものがボランティアであるというような、そういう意識を育てることが大事ではないかという意見をいただいて、ボランティアの明確な定義をしない形で載せたという経緯があったと記憶している。ただ、設問の順番が答えようとしている方の意欲を削ぐという指摘をいただいたので、順番は検討したい。

また、家族構成についても、第3期計画でも、核家族化が進んでいて、また、特にひとり親世帯の方が不安を感じている、困り事が多いということを明らかにするために、家族構成を細かく設定していたという経緯がある。実際に大きな傾向を見る上では、設問項目として7項目要るのか、例えば「その他」を設けているのであれば、そこで包含してしまうことで設問数を減らすということも考えられると感じているので、そこはこれから工夫をして、改めて部会長や副部会長にも意見をいただきながら整理させていただきたいと思う。

ボランティアのところを具体的に、例えば、ボランティア意識を明確に、ボランティアが何かを問うようなことができるものがあれば、また教えていただくと非常に助かる。

部会長：ボランティアとして、募金が入るとか、入らないという形もある。委員は、例えば指1本

でエレベーターを押すだけでもボランティアだという考えをお持ちの方なので、ボランティアというより地域活動を何かしているかという感じのものかとも思う。ボランティアとなると、やはりどこかの組織に属していて、ちゃんとオーソライズされた活動をしている人をボランティアと捉えがちではないか。具体的に書かれているが、子どもの行き帰りの見守りも含めて、オーソライズされた見守りと、15時から16時の間に買い物に行つて見守りを勝手にしている人もいると思う。勝手にしている人も包含するのであれば、地域活動に何か寄与しているかといった形の方が良いのではないかと思う。どうしてもボランティアという言葉に引っかかってしまう部分がある。

事務局：2ページに、ご意見いただいたような地域活動のことを聞いている。地域福祉計画はコミュニティ活動、いわゆる地域活動を育てていくのがメインのテーマではなくて、地域活動からさらに一步踏み込んだ、地域の中で本当に困った方がいた時にどう支えていくのかということを考えていくための計画だと考えている。そういった中で、前回計画の時にも、地域活動や交流を聞いた次のステップとして、それが実際にボランティアとか社会貢献的な活動につながっていくのか、そういったことを明らかにしたいというところで、第3期計画の時にはこういう順番にさせていただいていたが、前回もかなり回収率は高かった。参考資料でも付けているが、地域福祉という言葉を知らない市民はたくさんいるが、福祉と名前が付くと、当事者意識を持って答える意識も働くのではないかと考えている。項目数が多くなってきて、委員の意見を反映すると設問数もかなり多くなっているところもあり、設問数もカテゴライズして括っていけるような内容もあると思うので、そこは修正を考えていきたいと思う。

委員：社協の地域福祉推進計画でも、他市社協でアンケートを取っているが、地域活動とボランティア活動を一括りにして聞かれているところが非常に多い。地域活動の中にボランティア活動を入れていたり、清掃活動を入れていたり、具体的にはこういうことという形で次の設問で聞いているところが非常に多いという印象を受ける。一般市民の答えやすさで言えば、地域活動とかボランティア活動をしているか、実際どんなことをしているか、という流れで聞いた方が答えやすいという印象を受ける。

委員：同じく市民のところで言うと、やはり成年後見人を知らない人は、何のことなのか、支障が生じた時は制度を利用したいですかという、その制度が分からないと、何のことか分からないというところで難しいと感じると思うので、言葉も工夫がいると思う。

部会長：だいぶ整理されたが、最初のアンケートでは成年後見と日常生活自立支援も入っていたということもあって、内容もどちらかというところ日常生活自立支援事業の項目に近い。その辺りも、もう少し説明があつて、こんな制度があるがどう思われるかというような流れで。いきなり設問に入るより、再犯と成年後見については新たな項目なので、少しでも説明を入れると良いと思う。それでネガティブな意見が多くても大丈夫なので、そしてこういう形で周知していきましょうということで良いと思う。何も、みんな賛成という仮説につながるような設問でなくても良いと思う。その辺りも実際の意見だというところで。

前回計画ではパブリックコメントがあまり無かつた。だから、地域福祉計画をみんな知っているのかというのが、自分の活動の反省も含めて思っている。アンケートは予告編とし

て、2,000人にこんなことやりますと明示する役割も果たしている。統計を取るだけではなくて、こんなことを今から尼崎がしますという予告編だと思う。市民の負担を減らして、かつ市民に丁寧に説明したら、回答する人も気持ちよく答えられるだろうし、また広めていってくれると思う。市民アンケートは、2,000人に送ると、ロコミも含めて数万人に拡大すると言われている。予告編という意味では、もう少し丁寧さが必要になるのではないかと思う。

事務局：再犯や成年後見のところで、いきなり設問の形で出てくると、いきなりこんなことを問われてもびっくりしてしまうところがあると思うのが、事務局としても迷っている部分。設問の前に制度や言葉の定義を置く方が流れとしては分かりやすいと思うが、設問数が多いということもあって、アンケートのボリューム感を少しでも減らす方法として何か考えられないかというところで、用語集という形で制度説明や用語解説を別紙で付け、アンケート自体のボリューム感が抑えられるような形にできたらと思っていた。ただ、この部分については、多少ボリューム感が増えたとしても、まず解説があって設問があるという流れが良いと感じるところもあるので、意見をいただけると助かる。

部会長：アンケートの中に説明を入れるのも一つの方法であるが、それにより印象操作の疑いが持たれるので、全体的な流れとしては最初の調査項目の協力をお願いあたりに図示して、少し説明を載せておく方が良いのではないかと。もしくは、尼崎ではこんなことをしてきたというのを絵で見て分かるようにしてはどうかと思う。統計学上は、設問の近くに説明を入れるのはプレッシャーをかけるとも言われている。極端な言い方をしたら、設問が終わった後に説明を入れる方法もあるようだが、説明の文章で、少しでもこうすべきという形になると誘導している印象を持たれてしまうので、軽く前の方に載せるのも良いかと思う。例えば、問20～30に関してはこの内容、問31～40に関してはこのことを問うている、というような説明を付けて、そのページが多いのは全然問題ないのではないかと思うので、その辺りの丁寧さというか、市民に向けてお願いしている部分が出てくると思う。用語集も、前に置いておくのも一つかもしれない。また、最近マッピング技法といった調査方法も入ってきていて、絵で見る、字で理解できない人がすごく多くなっている。社協では、各地でそれをやっている。できるだけ設問事項を少なくして、絵で見て分かるような、ものすごく単純明解な形で社協も全国的にしている。社協の作るアンケートは設問も少ないので、そういった工夫をするのも一つだと思う。それでは、委員の皆さんの意見を集約して、また色々と修正していただく形になると思うので、お願いしたい。

### 3 計画策定に関連する福祉計画について

#### (1) 障害者計画

・尼崎市障害者計画・障害福祉計画について、事務局より説明

<質疑応答>

委員：ずっと障害者計画の委員をしているが、まず、見やすさを重視するために今年度は図示を中心に作っている。その前にアンケート調査をして、皆さんから色々と意見を伺いながら作ったが、非常に分かりやすいものができたと思う。

部会長：かなり図示されているのと、障害福祉の数字もきちんと載せていて、すごく分かりやすいと思う。問題点も含めて書かれているが、課題も入っているし、今後の地域福祉計画を立てるにあたって生きてくるのではないかと思う。地域福祉計画という総合的な計画を作る時の各論の1つとして、ものすごく考慮しているのではないかと思う。

事務局：今お配りしている各分野の計画は、いわゆる当事者やその家族、支える人の意見を中心にまとめたものになる。検討いただいている地域福祉計画は、そういった方を支える地域の人々が、どういう意識で当事者を支えていくかということを考えていくための基盤となる計画と考えている。それぞれの分野別計画を地域福祉計画がどう支えていけるのかといった視点で、今後考えていきたいと思っている。

例えば、障害の分野では、6ページの下に「基本施策7 安全に暮らす」がある。これは災害のことが書かれているが、東日本大震災も含めて、災害時に犠牲になった方の多くが障害のある方や高齢者であったということがある。一方で、障害者や高齢者の支援を行政が全て対応することでその人達の命を救えたかということ、現実的にはできなかったというところもある。国の考え方もそうだが、法律上、基本的な自助、共助が、国民の責務となっていて、自助、共助をうまく機能させる仕組みを作るのが我々公助の仕組みだという形で整理されている。公助がどういう形で自助、共助を支えていくのかという時に、やはり当事者だけでは無理なので、共助の仕組みに地域全体を巻き込んでいく仕掛けを作っていくということがこの地域福祉計画に求められていると考えている。委員の皆様は、既にそれぞれの分野において地域で取り組まれている方に来ていただいているので、各分野をどう支えていくかということについて、積極的に意見をいただきたいと思い、まず知っていただくためにご紹介している。

## （2）高齢者保健福祉計画

・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について、事務局より説明

<質疑応答>

委員：計画全般にそうだが、目標値を示してこの数値を目指すというところが、すごく分かりやすいと思う。出し方によると、数値を達成することが目標になってしまって、何のためにその数値を達成するのかというところが置き去りになってしまうことも見られる。そもそもこの数値を達成する目的や2026年度の目標があって、途中のプロセスとして、ここまで達成できている、障害者の働く雇用環境がこう変わる、という表現方法というか広報が、市民とシェアできるとより分かりやすいのではないかと感じている。

行ったり来たりになって申し訳ないが、調査票のボランティアのところとつながる。元気高齢者を応援していこう、できることをどんどんやっていこう、とする時に、あまりハードルが高過ぎるとなかなか難しくなるということで、私が「ちょボラ」とずっと言っているが、ちょっとしたことでも社会貢献になって、サービスを一方的に受ける高齢者ではなくて、貢献できる高齢者という形も、社会に現れてくると思う。質問肢の作り方も整合性を合わせていかないといけないところだと思う。

委員：今回の第8期計画に少し関わらせてもらったが、委員のこだわりの1つが表紙で、最初は高齢者と娘さんと息子さんというような家族だけの絵だったが、地域で支え合うという

ころが表紙を見て分かるように、上を向いた地域の方がいっぱいいる絵を入れたのを印象深く覚えている。内容は4つのテーマに分けて、それぞれ現在していること、これから頑張らないといけないことを整理して、今回の計画で分かりやすくなっていると思う。4ページに載っている4つのテーマで、私の所属している地域包括はどのテーマにも関わらず取り組みになるので、そのあたりで色々と意見は言わせてもらえたと思う。

### (3) 次世代育成支援対策推進計画

・次世代育成支援対策推進計画について、事務局より説明

<質疑応答>

委員：この冊子を作る会議に参加する中でとにかくお願いしたのが、子どもが持って帰ってくる手紙すらも読まないような保護者もいるので、極力文字を減らして欲しいということ。少しでもいいから見てもらえる、これをきっかけに見てくれるかもしれないから、とにかく軽量化やコンパクト化、絵もあって色もあって手に取りやすいものにしてもらえたら、表紙のイメージも明るくお願いして作ってもらった。

委員：冊子は大変見やすくなっているのですが、これから参考の資料としては良いのではないかと思います。

委員：5ページの提供区域ごとの量の見込と確保方策の数字が、令和2年度と令和6年度であり極端な差は出ていないが、こういう数字の見方で良いのか教えてほしい。

事務局：事業計画の部分については、所管課に聞かないと分からないので、後ほど答えさせていただく。

委員：この計画をどこの誰にどの位見てもらうかという部分があると思うが、私がとても良いと思ったのは、高齢者保健福祉計画は、例えば、これからの数の見込について、こういう理由だからこんなことをしますというのがすごく分かりやすい。それに対して、子どものキッズプランは、関連性が分かりにくい。3つの視点と、後ろに事業がたくさん載っているが、何の領域の何なのかという関連性が全く分からない。量の見込みも、例えば地域子ども・子育て支援事業の①放課後児童健全育成事業（児童ホーム）と②時間外保育事業（延長保育事業）は、令和2年から令和6年で数が減っている。普通なら、増えて、受け入れる数も増えていくという形だと思うが、毎年減っているというのは、少子化によりこうなるという説明もないので、簡略すぎてとても不親切な計画な気がする。事業をただただ紹介しても、何のどれに関連しているのか。簡略化と言うが、「検討します」、「推進します」、「進めます」は、誰がどこでどうしていくのか、これでは全く分からない。初歩の人には良いかもしれないが、私たちが見ると、一体何が言いたいのかという気がして不親切に思う。

また、2つの計画書の最後にPDCAの表があるが、高齢者保健福祉計画には4ページに小さく載っている。いつも思うが、PDCAは何年も前から書いてあることで、こんなに1ページも使って載せなくても良いのではないかと思います。

部会長：3ページの4つの方向性の一番左側、児童相談所の設置について検討を進めていきますとある。こう書かれると期待が膨らむが、かなり実現性のある方向なのか。

事務局：市の児童相談所はこれから検討を進めていくという形になっている。



部会長：全体的に、3ページでスローガンを出されるのはすごく良い形だが、今、児童福祉系の計画では、子どもの声を載せるのがトレンドになっている。一通り見たが子どもの意見はどこにも載っていない。どちらかというと行政目線になっているので、子どもの、当事者の視点を入れることも必要になるのではないかと。当事者寄りと行政のスローガン型の真っ二つにタイプは分かれるが、少しスローガン寄り過ぎている印象がある。

いじめとか体罰とかも書かれているが、何となく上から目線的な書き方なので、いじめにあっている子ども達の声はどうキャッチしていくのかということも考える。3つの計画を見て、前回と比べるとだいぶ見やすくなって、かなり市民向けに変わってきているが、全体を俯瞰してどんな印象か。

委員：内容については、皆さんの意見を聞きながら、逐一ご最もだと思った。私が気になったのは、基本的に、福祉の3本柱、高齢、障害、子どもの3つの計画で、それぞれの部署がそれぞれ作っているのは分かるが、あまりにも表紙とかタイトルのつけ方がバラバラで、統一感がなさ過ぎるのではないかと。具体的には、例えば、尼崎障害者計画・障害福祉計画というタイトルと同じフォントとか形で、高齢者の計画も付けるとか。全体的に見ると、高齢、障害、子どもの3つで福祉なのに、各部署の独自路線で作っていて、縦割りっぽい感じになっているように思う。それから、子どもの計画では、「わいわいキッズプランあまがさき」と書いていて良さそうに見えるが、タイトルからさっぱり意味が分からないので、障害であれば障害者計画とか、障害者の福祉計画であると分かるように、子どもや次世代の尼崎の計画だということが分かるようにした方が良いのではないかと。また、高齢者の計画はまだ愛称が入っていないが、肝心の高齢者保健福祉計画という名称が小さく下に書いてあるだけで、イラストもそれぞれバラバラのテイストのものになっているので、何かもう少し、3つ揃えて福祉のことを考える時に、手に取りやすくできれば良いのではないかと思う。

部会長：全体を俯瞰した意見をいただいた。私達はこういった形でそれぞれに出てくるのが当たり前になってしまっているが、そのご意見は確かにその通りだと思う。一部だけでも一致することも必要になってくるかもしれないと思った。

委員：地域福祉計画になるので、どう整合性を取っていくのか、すごく大きな宿題だと思う。

部会長：高齢者計画と障害者計画は、今年本当にガラッと変わる内容になった。すごく一般向けに、今まで難しい言葉が並んでいたのが読みやすくなったと感じる。良い対応をされたと思う。その辺りも各計画で努力されているのだと思う。

また、委員からの意見のように、市民から見ると、どうして3本柱なのにこんなに違うのかとか、どうして統一感がないのかと思われるとよろしくないもので、少しでも何か歩み寄れる部分、もしくは共通で何かできる部分があれば、そうするのも1つの方法かもしれない。他市でも、それはできていないところが多いので、ある意味で、尼崎がそこを打破していくというメッセージにもなるのではないかと思う。

#### 4 事務連絡

- ・今後のスケジュールと、次回（来年度、5月頃の開催予定）について、事務局より説明。

部会長：それでは、これをもちまして尼崎市社会保障審議会地域福祉専門部会第3回計画策定部会を閉会とさせていただきます。委員の皆様は長時間お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上